

弘前城下寺院街採集の近世陶磁器

佐藤雄生

一、遺物採集地点の歴史的環境

ここに紹介する資料は、弘前城下にある西茂森寺院街（通称「禅林街」）と新寺町寺院街（図1）において採集された近世陶磁器である。これらの陶磁器は、平成十六・十七年度、弘前大学人文学部文化財論ゼミナールが実施した近世墓標調査の際に採集され、同文化財論研究室に保管されている。

慶長八年（一六〇三）、津軽為信が築城を計画した弘前城は、二代信枚の手によって造営され、城下の形成に伴い、堀越や領内各所からの寺社・商人・家臣団などの移転が進められた。

西茂森寺院街は、弘前城の南西に位置し、城南の護りと宗教面での要となるよう、土塁と堀をめぐらせ、領内に散在していた曹洞宗の寺院を一ヶ所に集めたものである。その中心となるのが津軽家の菩提寺長勝寺であり、別名「長勝寺構」と呼ばれる。

新寺町寺院街は弘前城の南に位置し、西茂森寺院街と同じく、軍事・宗教面での要とされた。当初は、城の東側（寺町・現元寺町）に配置されていたが、慶安二年（一六四九）の寺町大火により五ヶ寺が類焼。翌

年、寺町の寺院は南溜池の南側に移され、新寺町寺院街を形成した。

西茂森寺院街では寺院の廃絶はあったものの、どちらの寺院街も全体としての配置換えはなく、現在まで墓地の利用が続いている。現在、西茂森寺院街には三十四ヶ寺、新寺町寺院街には天台宗が二ヶ寺、浄土宗が六ヶ寺、真宗が九ヶ寺、日蓮宗が六ヶ寺存在する。

二、西茂森寺院街採集の陶磁器

西茂森寺院街で採集した陶磁器には、碗・皿・小坏・鉢・瓶・香炉・仏飯器・湯通し・壺・甕・播鉢がある。磁器は肥前産、もしくは肥前系で、くらわんか碗（1・3）や広東碗（4）、なます皿（5）、小皿（6・7）といった食膳具、仏飯器（8）や獣面脚付青磁香炉（10）のような仏具の他、「醉入」という染付の入った瓶（9）がある。

肥前産陶器は、唐津焼中皿（13）、播鉢（19く21）、甕（25く27）がみられる。26の甕は、発見時、中ほどまで火葬骨が詰まっており、改葬の際に出土したものが放置されたと思われる。なお、副葬品は確認できなかった。27の甕は、肥前産のいわゆる「ハンズーガメ」と呼ばれるもの

である。この甕は、約30〜40個に割れた破片で採集されたため、甕棺に用いたのか貯蔵に用いたのかは不明である。

肥前産以外の陶器としては、信楽焼の腰白茶壺とみられるもの(24)や、悪戸焼の灰釉小碗(11)、灰釉鉢(12)、湯通し(14・15)、飯胴甕(16)、仏花瓶(17・18)、播鉢(22・23)がある。仏花瓶は、他にも小片をいくつか採集しており、墓前に置かれていた可能性がある。

三、新寺町寺院街採集の陶磁器

新寺町寺院街で採集された陶磁器には、碗・皿・猪口・香炉・壺・播鉢といった器種がみられる。磁器は肥前産、もしくは肥前系である。28の染付菊花文小皿は、いわゆる初期伊万里に属する製品で、今回採集された肥前磁器の中では最も古い。30の染付紫陽花文中皿は、染付の線描きや濃淡が巧みで、高台の削りや畳付の釉剥ぎが丁寧であることから、上手の製品であるといえよう。

肥前産陶器には、灰釉碗(33)や刷毛目文碗(34)、現在の嬉野町内野山地区で生産されたとみられる銅緑釉・鉄釉掛け分け皿(35)がある。36の備前焼播鉢は十六世紀代まで遡ると思われるが、年代決定の基準となる口縁部が残存していないため、詳細な年代を与えることは難しい。その他、陶器では悪戸焼の播鉢(37)、信楽焼の茶壺(38)がみられた。なお一部しか図示できなかったが、西茂森・新寺町の両寺院街において、播鉢が数多く採集された。おそらく、壺・甕といった蔵骨器の上に播鉢を伏せ、蓋として用いたと思われる。本行寺では、埋設された二彩唐津

の甕も発見されている(図6・7、表3)。

四、まとめ

今回紹介した資料は、採集地点が墓地であるため、蔵骨器に用いられたと思われる唐津焼の甕や信楽焼の茶壺、墓前祭祀用の悪戸焼の仏花瓶や肥前産の仏飯器・香炉といったものがみられた。碗皿などの食膳具は、寺院における日常生活で使われたもの以外に、死者に供えられたものも含まれていると思われる。津軽地方では、各地で伝世したと思われる唐津焼のハンズーガメを目にする。今回、弘前城下寺院街においてハンズーガメが採集されたことで、大甕を生産する窯業地をもたない北東北に、それらが供給されていたことが改めて確かめられた。

本稿の作成にあたり、大橋康二、石井 啓、中村香韻、関根達人の諸氏より御教示を頂きました。末筆ながら記して感謝申し上げます。

〔参考文献〕

- 九州近世陶磁学会 二〇〇〇『九州陶磁の編年』
- 弘前大学人文学部文化財論ゼミナール 二〇〇五『弘前大学人文学部文化財論ゼミナール調査報告IV 津軽悪戸焼の研究』
- 弘前大学人文学部文化財論ゼミナール 二〇〇七『弘前大学人文学部文化財論ゼミナール調査報告VII 津軽の近世墓標―附篇 津軽の寺院過去帳―』

(さとう・ゆうき 弘前大学大学院人文社会科学研究所)



*「昭和50年度撮影 国土画像情報（カラー空中写真）
国土交通省」を編集・改変

図1 弘前城下の寺院街と遺物採集地点

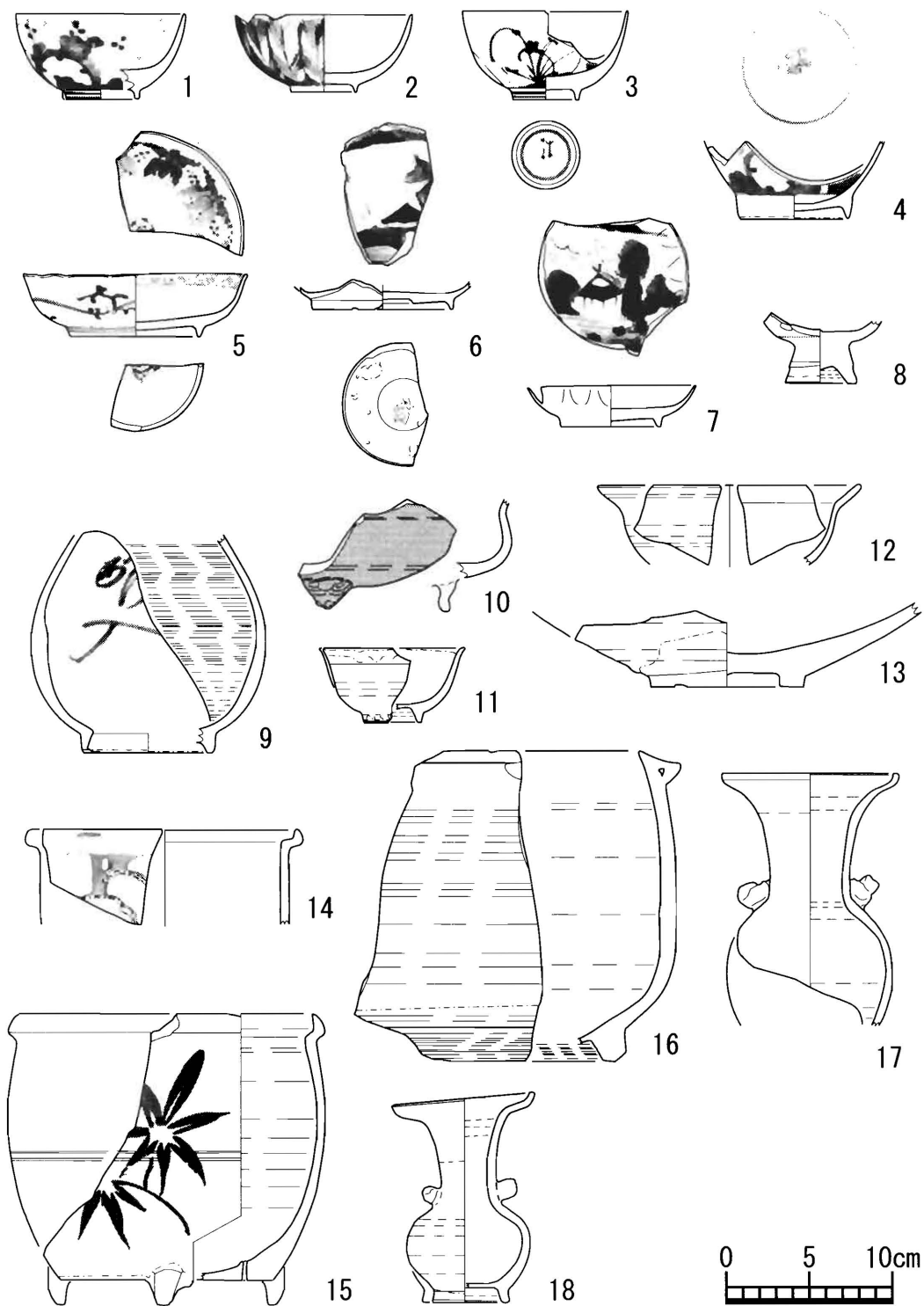


图2 西茂森寺院街採集資料1

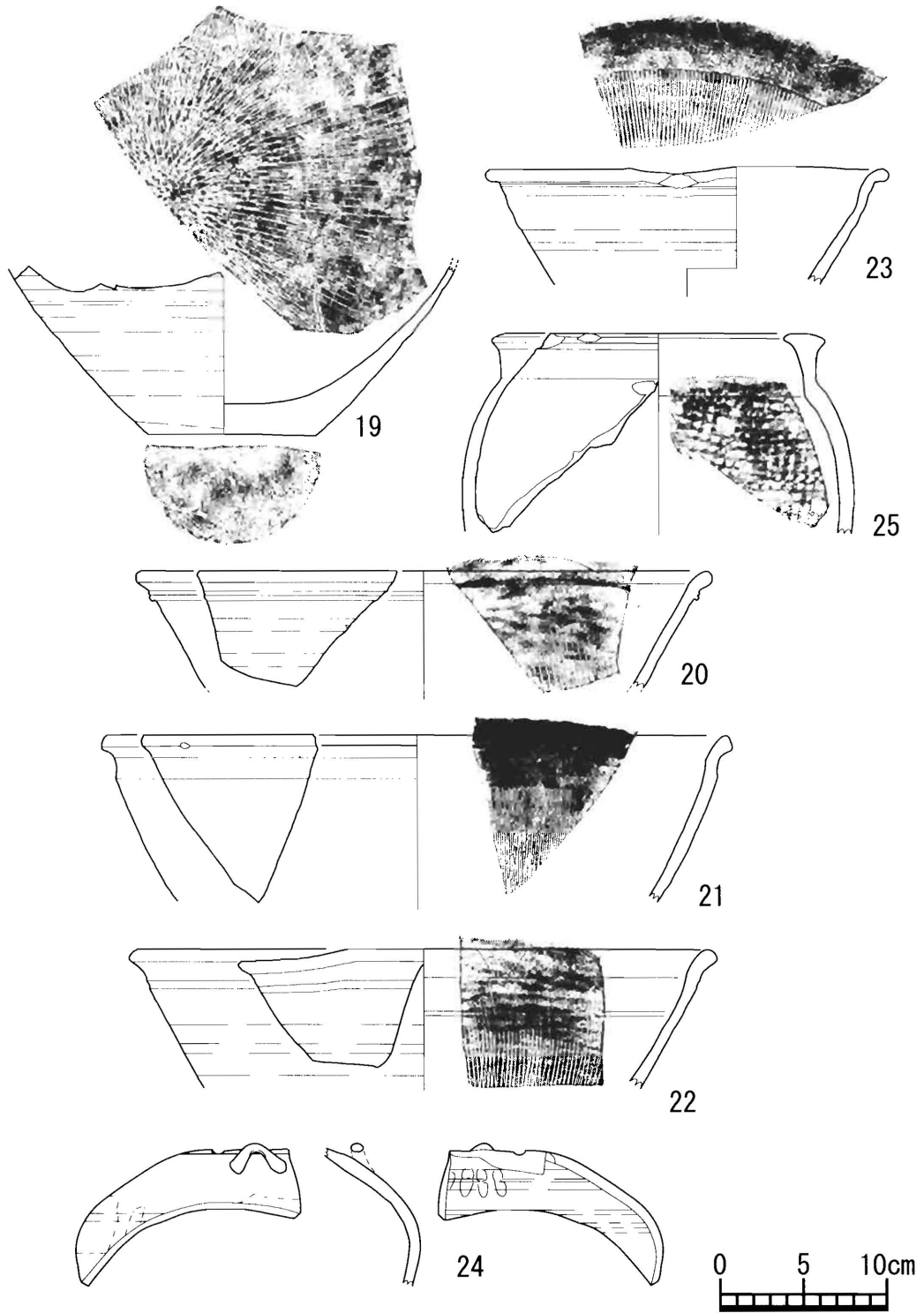


图3 西茂森寺院街採集資料2

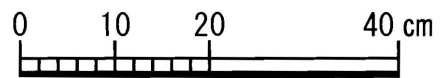
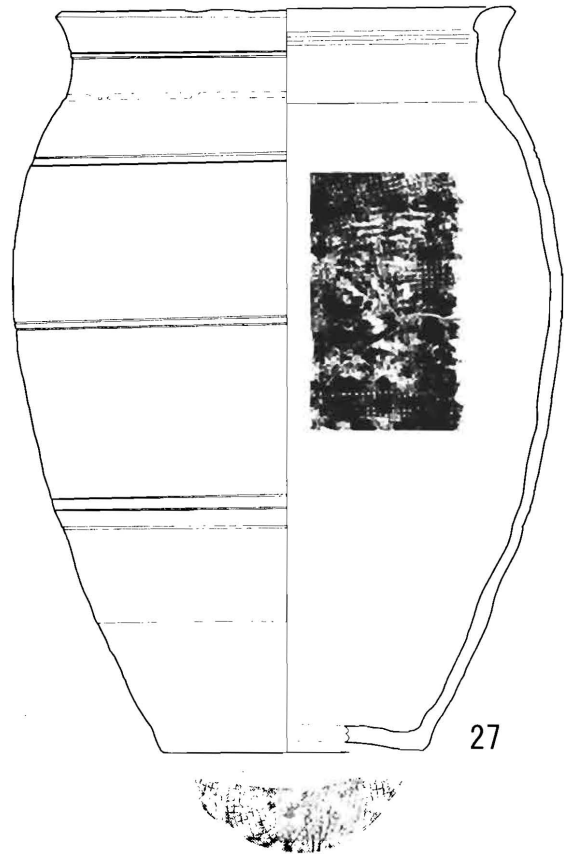
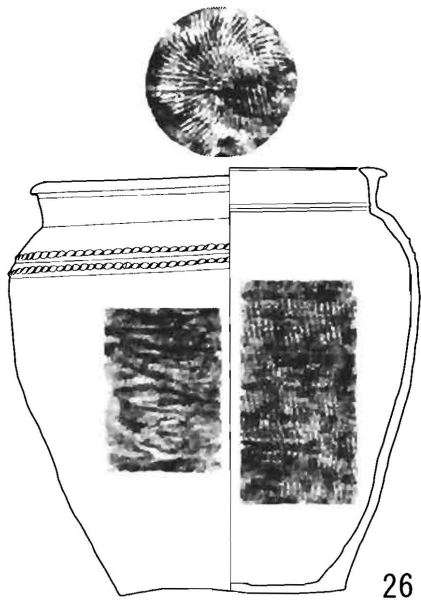


图4 西茂森寺院街採集資料3

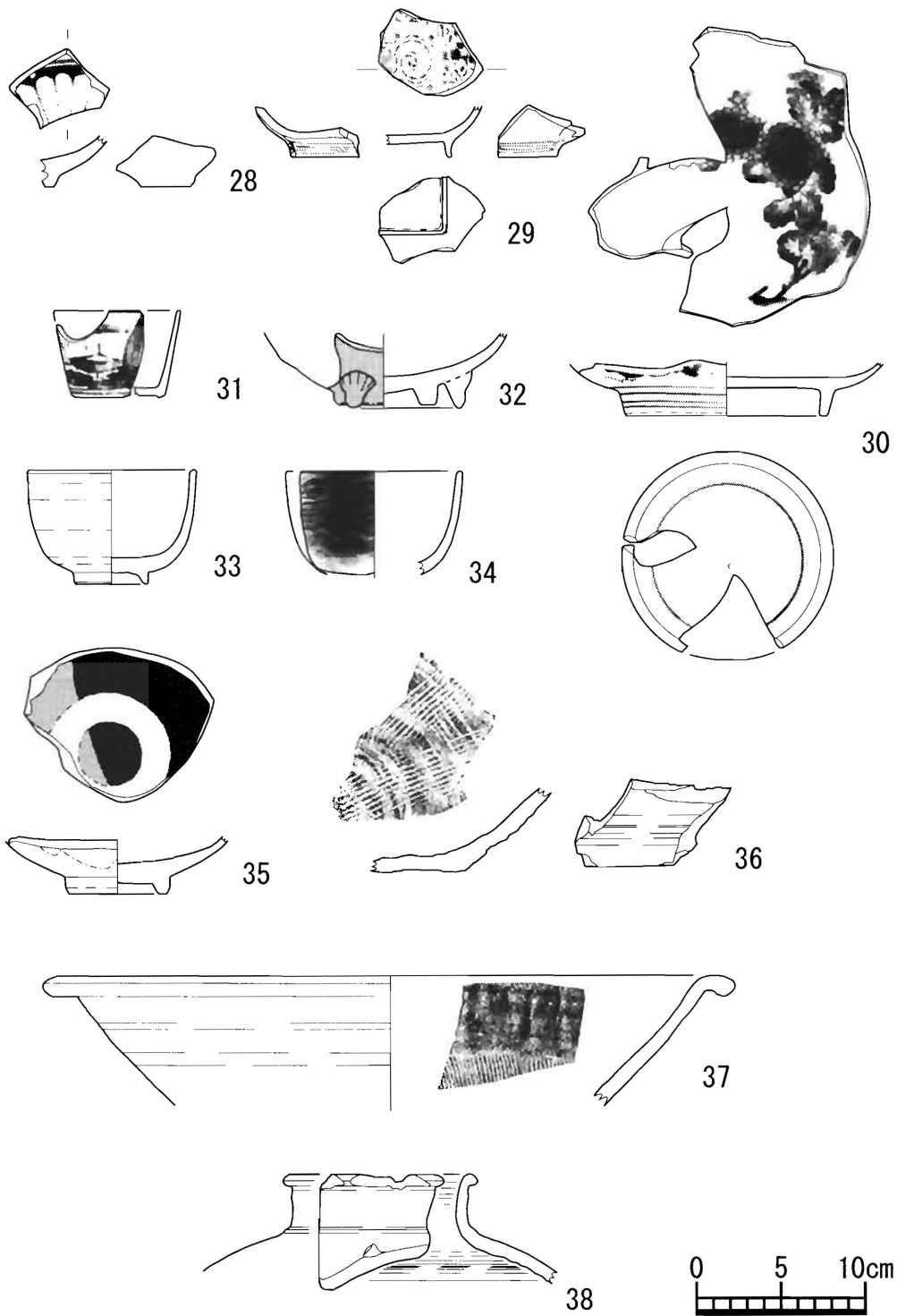
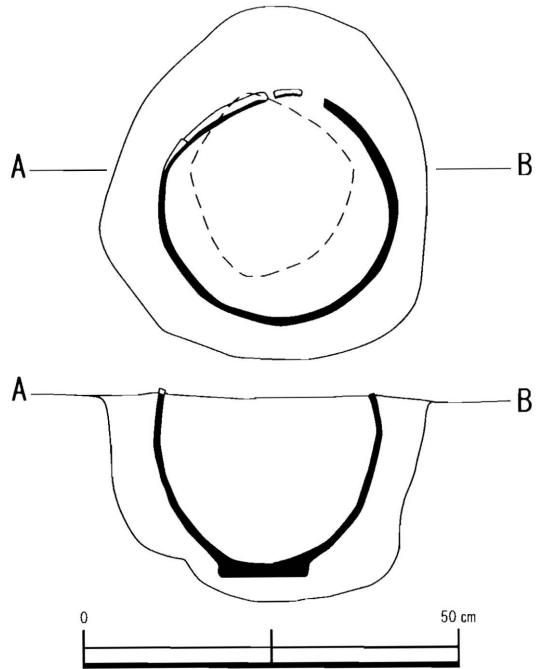
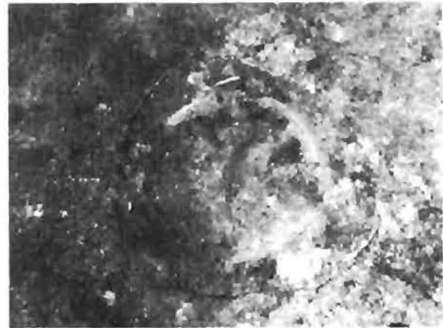


图5 新寺町寺院街採集資料



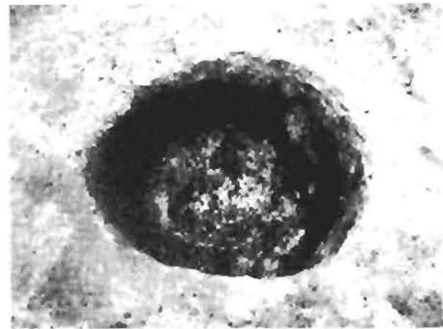
① 調査前遠景（東から）



② 検出状況近景（東から）



③ 甕掘り上げ途中（南から）



④ 完掘（南から）

図6 新寺町本行寺 唐津甕出土地点および埋設状況

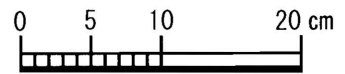
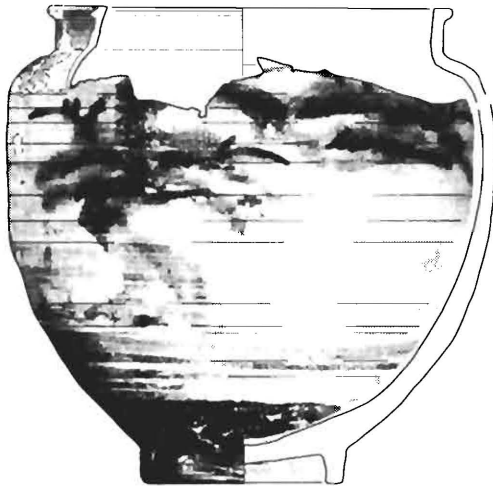
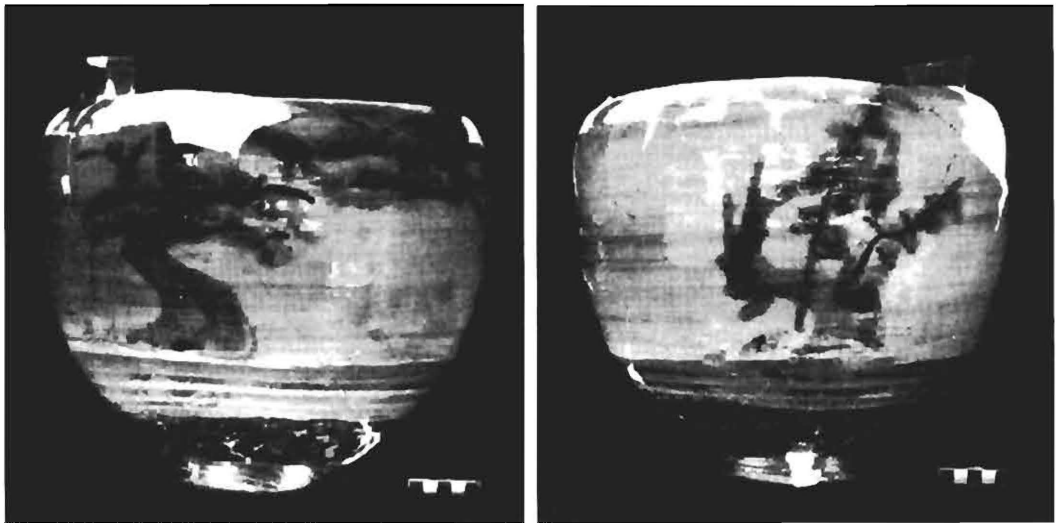


图7 新寺町本行寺 二彩唐津甕 写真・実測図

表1 西茂森寺院街採集陶磁器観察表

No.	採集地点	器種	口径	底径	器高	技法・装飾	生産地	製作年代	備考
1	海蔵寺	小碗	10.3	4.4	5.2	ロクロ成形/染付 雪の輪梅花文	肥前	18c後	
2	海蔵寺	小碗	10.1	4.0	4.7	ロクロ成形/染付 矢羽根文	肥前	18c後	
3	陽光院	小碗	9.9	4.0	5.4	ロクロ成形/染付 草花文	肥前	18c	
4	宗徳寺	中碗		6.6		ロクロ成形/染付 雪の輪文 見込文様不明	肥前	18c末～19c前	
5	泉光院	小皿	13.6	7.9	3.8	ロクロ成形/染付 口縁輪花状 竹梅文 見込五弁花 内面口縁部に四方襷帯 外側面花唐草 高台内に「満福」	肥前	18c前半	
6	海蔵寺	小皿		8.5		ロクロ成形/染付に「ほせ」 楼閣山水文 蛇の目凹型高台 高台内に「ほせ」	肥前系	19c前～中	焼継ぎか
7	宝泉院	小皿		6.0	2.5	型打ち成形/染付 楼閣山水文 口縁輪花状	肥前系	19c前～中	
8	海蔵寺	仏飯器		4.2	4.3	ロクロ成形/染付 高台内無軸	肥前	1630～17c第3四半期	
9	陽光院	瓶		7.9		ロクロ成形/染付 呉須で「酢入」と書く	肥前	17c後	
10	隣松寺	香炉				ロクロ成形/青磁 獣面脚付き	肥前	17c中～末	
11	月峰院	小坏	8.8	3.6	4.5	ロクロ成形/灰軸 口縁部に白釉を上掛け 高台内無軸	悪戸	19c初～20c初	
12	福寿院	鉢	16.1			ロクロ成形/灰軸	悪戸	19c初～20c初	
13	海蔵寺	中皿		9.2	5.1	ロクロ成形/灰軸 胴部下半から高台内にかけて無軸	肥前	17c前	
14	海蔵寺	湯通し	16.2		5.8	ロクロ成形/灰軸・筒描き	悪戸	19c初～20c初	
15	海蔵寺	湯通し	17.6	12.8	16.1	ロクロ成形/灰軸・鉄軸 紅葉文 外面底部無軸	悪戸	19c初～20c初	
16	川龍院	飯團壺			18.9	ロクロ成形/灰軸 高台脇から底部にかけて無軸	悪戸	19c初～20c初	
17	海蔵寺	仏花瓶	10.8			ロクロ成形/灰軸 耳付き	悪戸	19c初～20c初	
18	宗徳寺	仏花瓶	8.7	5.2	12.8	ロクロ成形/灰軸 耳付き 高台脇から外面底部にかけて無軸	悪戸	19c初～20c初	
19	万蔵寺	播鉢		10.4		ロクロ成形 底部系切り痕あり	肥前	17c後	
20	長勝寺	播鉢	34.6			ロクロ成形/鉄軸	肥前	18c	
21	鳳松院	播鉢	37.6			叩き成形/鉄軸	肥前	18c～19c	
22	福寿院	播鉢	34.0			ロクロ成形/鉄軸	悪戸	19c初～20c初	
23	鳳松院	播鉢	24.2			ロクロ成形/鉄軸	悪戸	19c初～20c初	
24	宗徳寺	壺				ロクロ成形/鉄軸 耳付き	信楽	17c後半以降	内面に指跡あり
25	常源寺	甕	20.0			叩き成形/鉄軸	肥前	17c後	
26	勝岳院	甕	31.5	24.4	44.3	叩き成形/鉄軸 肩部に2条の縄状凸帯	肥前	17c中	
27	宗徳寺	甕	49.2	28.5	77.8	叩き成形/鉄軸	肥前	18c後～19c	内面に漆付着

表2 新寺町寺院街採集陶磁器観察表

No.	採集地点	器種	口径	底径	器高	技法・装飾	生産地	製作年代	備考
28	本行寺	小皿				ロクロ成形/染付 菊花文	肥前	1630～40年代	
29	法立寺	長皿				糸切り細工成形/染付 型紙刷り 高台部に雷文帯	肥前	18c前	
30	法立寺	中皿		12.0		ロクロ成形/染付 紫陽花文 高台内にハリ支え痕	肥前	1670～90年代	
31	法立寺	猪口	7.4	5.0	5.2	ロクロ成形/染付 楼閣山水文 蛇の目凹型高台	肥前系	19c前～中	
32	法立寺	香炉		6.0		ロクロ成形/青磁 脚付 内面無軸	肥前	17c後	
33	本行寺	中碗	6.7	10.1	4.4	ロクロ成形/灰軸	肥前	17c末～18c前	
34	本行寺	中碗	10.6			ロクロ成形/刷毛目装飾	肥前	17c末～18c前	
35	法立寺	小皿		6.0		ロクロ成形/銅緑釉・鉄軸掛け分け 見込み蛇の目軸刺ぎ 高台内無軸	肥前	17c後～18c前	
36	本行寺	播鉢				ロクロ成形/焼締め 外面にへら削り痕	備前	16c	
37	本行寺	播鉢	38.8			ロクロ成形/鉄軸	悪戸	19c初～20c初	
38	本行寺	壺	10.7			ロクロ成形/鉄軸 耳付き	信楽	17c後半以降	

表3 新寺町本行寺出土二彩唐津甕観察表

器種	口径	底径	器高	技法・装飾	生産地	製作年代	備考
甕	26.8	13.35	31.4	ロクロ成形/透明釉・鉄軸・銅緑釉 白化粧土を施し松を描く	肥前	17c後～末	中から入管は検出されなかった